

スタイルのある家に住む
『ライヴズ』(隔月刊)

子育てファミリーの家づくり白書

LIVES

LIVING & LIFESTYLE MAGAZINE



こどもも大人も
大満足。
ベビー&キッズ
インテリア
はじめての学習机、
上手におかたづけ、
思い出のかざり方 etc.

こどもとの 毎日がたのしい家 子育てファミリーのHOME & LIFE

こども部屋はいる? いらない?

家が最高の遊び場

つかず離れずの距離感がいい...

いいね! が満載の快適ライフ

ペットと暮らす家のアイデア

シェアハウス&オフィスで
ペットのいる暮らしをたのしむ

APR.-MAY
2014

VOL.
74

新発想の家を生み出す コラボレーションラボ

みんなの家づくり研究所

イエコラボ

I E C O L A B

2014年・春 WEBサイトリニューアル



www.iecolab.jp

01

京町家の暮らしのエッセンスをいまに蘇らせる。

「日本の家」

ゼロバートナース × ケイミュー × パナソニック株式会社 エコソリューションズ社



上/3間タイプにはさまざまな用途に使うことのできる「通り庭」が設けられ、前面道路とつながる。右/2間タイプの外観パース。町家と並んでも違和感のない、日本的なエッセンスを取り入れたデザイン。



失われた暮らしの豊かさを、規格住宅として広めていくことにこのプロジェクトの可能性があると語る、建築家 山内靖朗氏。



3間タイプの平面図。1間の通り庭は町家のように、玄関から裏の坪庭まで続く。3階は仕切りのないフレキシブルに使える間取り。

建築家や設備メーカーなどのコラボレーションを通して、新たな住宅のスタンダードを創造する「イエコラボ」プロジェクト。現在同時進行している複数の案件から、最新のプロジェクトを紹介する。

一つ目は、イエコラボの総合プロデューサーでもある藤の家建築設計事務所 山内靖朗氏が設計を担当する「日本の家」プロジェクト。現在、さまざまなジャンルで日本文化が再評価されているが、住宅において「日本の住まい方」をコンセプトにした住宅商品は流通していない。

「このプロジェクトを始めたきっかけは、京都の町家でした。京町家は今、住み手の高齢化で年間約1000軒が壊されています。町家の特徴は間口が狭く奥行きが深い「うなぎの寝床」と呼ばれる形状。狭小住宅の多い現代の都市住宅の立地条件にも似たこの佇まいに、現代の日本人が忘れていた住まいの可能性を感じたのです。」(山内氏)

「日本の家」では日本古来の建物の基準である一間(約

1.8m)を基本に、間口の幅を3タイプに設定している。「LDKの間取りに慣れていた現代人は、リビング、寝室、といったわかりやすい形がないと暮らしをつくれなくなっている。かつての町家はひとつの座敷が寝室にもなれば居間にもなるといったように、住まい手の知恵で使いこなせる豊かな空間だったんです。」(山内氏)

三間、四間間口のタイプには、建物を貫く「通り庭」とよばれる土間もあり、作業場や友人、近所の住人とのコミュニケーションスペースとしても使える。また内部には囲炉裏も設けられる予定だ。食事の場になったり、ゲストを迎えたり、時にはバーカウンターにもなる囲炉裏は、生活のあらゆる場面で人と人を結び場となる。建材や設備に関しては、ケイミュー株式会社、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社が全面的にバックアップしていく。

町家に散りばめられた、豊かな暮らしのエッセンス。しかし、かつてはスタンダードであったその暮らし方を、現在流

日本の暮らし方を変える、注目の2プロジェクト。

日本全国どこで建てても変わらない快適な住環境を、規格住宅として提案する「イエコラボ」プロジェクト。今回は、京町家のエッセンスを今に蘇らせる「日本の家」と敷地の制約に挑戦した「ECO+TAS」の2つのプロジェクトを紹介する。

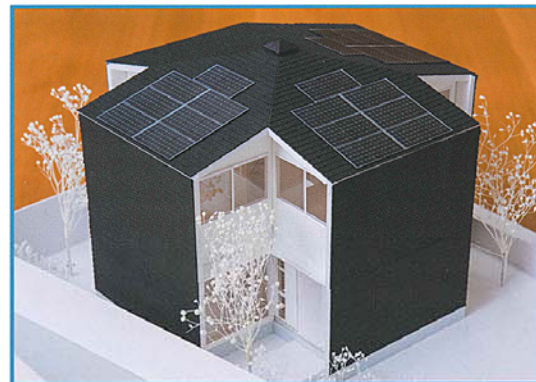
text: jun manabe photograph: kaori nishida

02

敷地を選ばない究極の形。

「ECO+TAS」

ゼロバートナース × パナソニック株式会社 エコソリューションズ社



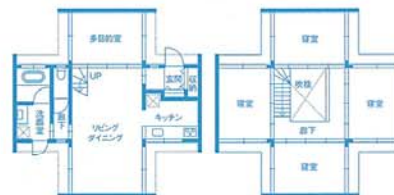
プラス型の形状は敷地に影響されずに光、風を取り込むことができ、敷地に対して回転させて配置することができるので、方角による制約を受けない。プラス型の屋根にはソーラーパネルが配置され、パッシブとアクティブが共存した住宅となる予定。



ヤスダアーキテクト代表の安田幸文氏。



くぼみの余白は、デッキや坪庭など、ライフスタイルに合わせたカスタマイズが可能。



1階は中央を一直線に広く空けた間取り。2階は中央に吹き抜けを配し、凸部分を4つの居室にしている。

通している住宅のほとんどが継承していない。「忘れられていた日本の暮らし方を、多くの人に知ってもらいたい。」(山内氏)

建築家による「一品モノ」ではなく、誰もがどこでも建てられる「規格住宅」であることに意味がある。「日本の家」は、町家の暮らしを現代に呼び戻す、注目のプロジェクトだ。

敷地を選ばず快適な住環境を実現する「ECO+TAS(エコタス)」プロジェクト。

もう一つの進行中のプロジェクトが、ベツダイとヤスダアーキテクトのコラボレーションによる「ECO+TAS」だ。敷地が南向きか、北向きか。住宅の快適さは、敷地の形状や隣地に大きく影響される。「ECO+TAS」は、こうした敷地の制約を軽減し、条件の悪い土地でも快適な住環境を提供できるプランなのだ。快適さのカギは住宅の形状にある。「ECO+TAS」は四角ではなく、四隅を削り落としたブ

ラス型。隣地に密集して家が建っていても、くぼみの部分に設けられた開口部から採光や換気を行うことができる上、建物の縦、横と対角線の幅がほぼ一体となるため敷地に対して斜めに回転させて配置することも可能。また、くぼみの部分は小庭やデッキを設けたりと、ライフスタイルに合わせてカスタマイズできる。こちらも、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社がバックアップする。

敷地の条件に左右されない、快適な住環境を提供する。敷地を選ばない「ECO+TAS」は、まさに「イエコラボ」のコンセプトを体現するプロジェクトといえる。

LIVES編集長 坂本二郎

型にはめられて暮らすのではなく、住まい手が暮らし方を創造する

家族構成や暮らし方の変化に対応できる、柔軟性をもった住宅が今、求められている。今開発されたプロジェクトは共に住まい手が主体となって暮らしを創造できる、時代のニーズに応える住宅といえるだろう。



BETSUDAI

株式会社ベツダイ
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 11階2999号
TEL:03-5561-6330 FAX:03-5561-6336

もっと見たい! 知りたい! イエコラボはコチラ

イエコラボ